

# 事業実施報告書

団体名：埼玉性的虐待研究会

事業名：児童福祉施設における性教育委員会設立運営マニュアルの作成

## 1 事業の目的

埼玉性的虐待研究会（当研究会）は、現在社会的にも注目され始めてきた児童福祉施設における性的問題に平成 20 年度から取り組んできた団体である。平成 21 年度に実施した性的問題の実態調査をはじめ、継続的に実施している治療教育のプログラムなどは性的問題への対応に苦慮する県内の児童福祉関係者からも問い合わせをいただいていた。しかし、当研究会が支援し、新たに施設内の性教育に取り組み始めたにも関わらず、継続的な取り組みに至らないところが少なくないことが問題となっていた。継続的な取り組みにするための手引きとして「児童福祉施設における性教育委員会設立運営マニュアル」を作成する事業を計画した。

## 2 事業内容

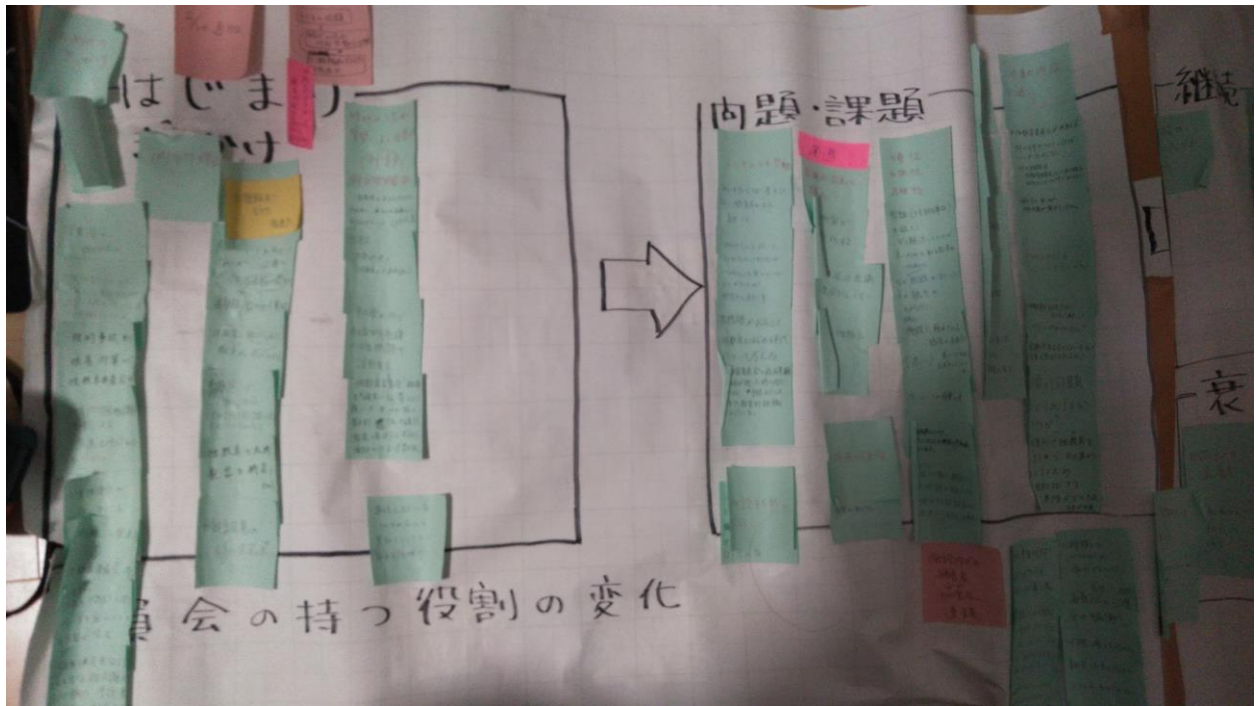
### （1）事業の概要

性教育委員会設立運営マニュアル作成のための取り組みとして①調査研究②事例検討③性教育実践のワークの検討を実施した。調査研究は質問紙調査を研究会内で行ったところ、性教育委員会の立上げの経緯や活動内容等が多岐にわたることがわかった。そのため、当初計画していた大規模な量的調査ではなく、質的調査の方が実践に役立つマニュアルになると考え、KJ 法による質的調査を行った。また、事例検討を行い、実際に施設ではどのような場面で性教育を必要とし、実践しているかを理解した。マニュアルには各施設の職員が取り組みやすいワークとして、当研究会が作成した「部屋づくりのワーク」を紹介する予定であり、マニュアルを読んだ方にこのワーク実践のために必要な項目について検討した。

### （2）事業の流れ

#### ① 調査研究

日時	会場	内容	人数
R1年6月6日	すこやかプラザ	質問紙調査の項目検討。	24名
7月12日	国立女性教育会館	質問紙調査の実施	16名
8月9日	泰山木のある家	質問紙調査の回収	20名
9月13日	国立女性教育会館	質問紙調査の分析	18名
10月12日	〃	質問紙調査の分析	18名
11月15日	〃	質問紙調査の分析、更なる調査方法の検討	14名
12月13日	〃	KJ法調査の実施。	18名
R2年1月10日	〃	KJ法調査結果の分析。報告書の検討、作成	20名
2月14日	市民会館おおみや	KJ法の実施（追加）。結果の分析。報告書の検討、作成	23名



12月のKJ法の様子

## ② 事例検討会

日時：2019年8月9日（金）10時～12時

会場：児童養護施設泰山木のある家

内容：性的問題行動のある子どもの事例検討会

参加者：助言者星野崇啓先生（さいたま子どものこころクリニック）

児童養護施設泰山木のある家職員2名

当研究会会員20名



8月事例検討の様子

③ 性教育実践としての「部屋づくりのワーク」の検討 当研究会会員 20 名

日時：2019年8月9日（金）13時～15時

会場：児童養護施設泰山木のある家

内容：マニュアルに掲載する予定のワークを全員で体験し、ワークの実践のために注意すべき項目について検討した。

参加者：当研究会会員 20 名

(3) 連携・協力機関

児童養護施設泰山木のある家

3 成果及び今後の展開

- ・マニュアル作成のための調査研究を通じ、性教育委員会の設立のきっかけや継続、定着、衰退要因などがわかってきた。性教育委員会設立のきっかけとしては、子どもの性問題を起因することはあるが、組織や職員の性問題に対する意識の高まりによって委員会が作られることが多いようだった。委員会を継続する中で、定着する活動がある一方で、性問題に対する意識が時間の経過や当事者意識の薄さなどで低くなることもあるようだった。また委員会所属とそうでない職員の差や忙しい業務のほかに性教育を行うことの負担感、子どもの入れ替わりや問題の多様性による、ゴールの無さや個別化を行うことでの仕事量の増加などが課題となっているようだった。委員会の継続と衰退については、施設内での意識や研修が定着することにより、継続することや、より一層の発展があるが、職員間の温度差や人の入れ替わりにより、危機意識が低下するということが挙げられていた。これらは、施設内の職員が定着して働くことが出来る環境であるかの構造とも共通する点がある可能性がある。大きくは職員の成長や意識など人員的な問題や、組織のバックアップがあるかなど、組織風土の問題も絡んでおり、具体的にどんな内容が負担になるのかなどはわかっていない。また性教育委員会における施設内の役割が、たとえ名称が同じであったとしてもかなり異なることが予想され、今後は施設内での具体的な活動内容などを確認する必要がある。
- ・事例検討を通じ、性的問題行動のある児童のケアを考える上で、生活の中で大切にすることや周りの子どもへのフォロー、子どもを抱え続けていくことの大切さ等マニュアル作成のために欠かせない事柄について示唆を得た。
- ・性教育実践のワークを通じ、「部屋のワーク」についての重要な要素や手順が確認でき、マニュアルに載せた際に理解してもらいやすい教示等を検討することができた。
- ・事業の取り組みは大変有意義であったが、調査方法を途中で追加したため、今年度中にマニュアルを完成させることができなかった。そのため、今年度は調査の結果を報告書という形でまとめ、来年度調査結果を詳細に分析し、マニュアルを完成させたいと考えている